



田んぼの水草を取るボランティアら
徳島県鳴門市

徳島

魚がすむ田んぼ
で、特産のレンコ
ンを育てよう！
徳島県鳴門市で大

学の研究者とボランティアが
協力し、ユニークな取り組み
を進めている。昔ながらの自
然環境を守りつつ、収量アッ
プの「一石二鳥」を目指す。
徳島県は全国2位のレンコ
ン産地だが、水路の底にたま
った泥を取り除くのは高齢の
農家にとって重労働のため、
コンクリートで整備するとい
ろが増えている。

そんな中、2004年に鳴
門市の水路で、県内では絶滅
したと思われていたコイ科の
カワバタモロコが見つかつ
た。「このままでは魚がすみ
づらくなってしまう」。徳島

大の田代優秋助教(30)は、希少な魚の発見
系工学は、希少な魚の発見

7/28 ②

魚泳げばレンコン豊作？

研究者と協力
住民ら協力

神戸新聞

を機に、魚がレンコンの収量
アップに貢献していると証明
することで、自然のままの水
路を残すことができないかと
考えた。

昨年、鳴門市内の約80平方
メートルの田んぼで実験を開始。フ
ナを放流した区画の収量が、
そうでない区画より2割ほど
多いとの結果を得た。フナが
ミミズなどのエサとともに余
分な水草を食べ、水中の土も
耕すためと推測される。

今年はロコミで地元住民や
農家、企業から約40人のボラ
ンティアが参加。6月に水路
の水草を切り、魚が田んぼに
入りやすい環境をつくった。

収穫は10月の予定。田代助
教は「自然を生かしながら、
地域を活気づけたい」と話し
ている。